

2021年4-6月期GDP速報（1次速報値）

～ ポイント解説 ～

令和3年8月16日

内閣府経済社会総合研究所

国民経済計算部

[1] GDP成長率

2021年4-6月期のGDP成長率（季節調整済前期比）は、1次速報値において、実質は0.3%（年率1.3%）と2四半期ぶりのプラス成長となった。名目は0.1%（年率0.2%）となった。

[2] GDPの内外需別の寄与度

実質GDP成長率（季節調整済前期比）に対する内外需別の寄与度を見ると、国内需要（内需）は0.6%と2四半期ぶりのプラス寄与となった。財貨・サービスの純輸出（外需）は0.3%と2四半期連続のマイナス寄与となった。

[3] 需要項目別の動向¹

（1）民間需要の動向

民間最終消費支出については、実質0.8%増と2四半期ぶりの増加となった。

民間住宅については、実質2.1%増と3四半期連続の増加となった。

民間企業設備については、実質1.7%増と2四半期ぶりの増加となった。

民間在庫変動のGDP寄与度については、実質0.2%となった。実質の在庫残高が2021年1-3月期から4-6月期にかけて増加幅を縮小したことから（2021年1-3月期1.4兆円、4-6月期0.5兆円）その変化分（1.0兆円）がGDP成長率に対してマイナス寄与した²。

（2）公的需要の動向

政府最終消費支出については、実質0.5%増と2四半期ぶりの増加となった。

公的固定資本形成については、実質1.5%と2四半期連続の減少となった。

¹ 季節調整済前期比について解説。

² 実額はいずれも実質季節調整値（年率表示）。

公的在庫変動のGDP寄与度は、実質 0.0%となった。

(3) 輸出入の動向

財貨・サービスの輸出については、実質 2.9%増と4四半期連続の増加となった。

財貨・サービスの輸入については、実質 5.1%増と3四半期連続の増加となった。

[4] デフレーターの動向

GDPデフレーターについては、季節調整済前期比で 0.3%となった。国内需要デフレーターは前期比 0.1%となった。外需デフレーターはマイナスに寄与した。

GDPデフレーターの前年同期比については、 0.7%となった。

[5] 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う対応について

2021年6月については、新型コロナウイルス感染症の影響により、従来の補外方法ではとらえきれない基礎統計の動きが予見される。このため、2020年1-3月期以降と同様に、推計時点で利用可能な業界統計・業界大手企業のデータ等の動きにより6月値を補外している。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、引き続き、推計する系列が過去の動向と大きく異なる動きが予見される中、季節変動や不規則変動をより適切に推計するため、2021年4-6月期においても、加法型異常値処理のダミー変数を設定した。

[参考]

[1] G N I (国民総所得) の動向

2021 年 4-6 月期の実質 G N I 成長率は、季節調整済前期比で 0.0% (年率 0.1%) と 2 四半期連続のマイナスとなった³。海外からの実質純所得はわずかにプラス寄与 (寄与度 0.0%) となった一方、交易利得がマイナス寄与 (寄与度 0.4%) となった。名目 G N I 成長率については、季節調整済前期比で 0.1% (年率 0.4%) と 2 四半期ぶりのプラスとなった⁴。

[2] 雇用者報酬の動向

2021 年 4-6 月期の名目雇用者報酬は、前年同期比で 1.9% 増、季節調整済前期比で 1.7% となった。前年同期比については、一人当たり賃金、雇用者数ともに増加に寄与した。実質雇用者報酬については、前年同期比で 2.5% 増、季節調整済前期比で 1.4% となった⁵。

(以上)

³ 実質 G N I = 実質 G D P + 海外からの実質純所得 + 交易利得

⁴ 名目 G N I = 名目 G D P + 海外からの純所得

⁵ 実質雇用者報酬は名目雇用者報酬を家計最終消費支出 (除く持ち家の帰属家賃及び FISIM) デフレーターで除して算出した参考値。